

---

■■■ 福祉社会学会ニューズレター 第 51 号 ■■■  
Japan Welfare Sociology Association Newsletter No.51

<http://jws-assoc.jp/>  
E-mail: maf-ws@mynavi.jp

---

\*\*\*\*\* INDEX \*\*\*\*\*

- 第 16 回大会の自由報告の申し込みと予稿集原稿の提出について
- 福祉社会学会第 16 回大会テーマセッションについてのお知らせ
- 福祉社会学会第 16 回大会シンポジウムについてのお知らせ
- 福祉社会学会第 16 回大会の事前振込について
- 現在、非会員で大会報告申し込みをお考えの方に
- 外部研究会の御案内
- 事務局からのお願い

※この号はメーリングリストおよび Web 上での配信のみとなっています。

---

■第 16 回大会の自由報告の申し込みと予稿集原稿の提出について

---

福祉社会学会第 16 回大会が 2018 年 6 月 16 日（土）・17 日（日）に中京大学豊田キャンパス（〒470-0393 愛知県豊田市貝津町床立 101）にて開催されます。大会での自由報告の申し込みについてお知らせします。

自由報告の報告時間は 1 人 30 分を持ち時間とし、20 分発表、10 分討論を標準としますが、申込み数によって調整をお願いすることもあります。

<自由報告申込と予稿集原稿の提出について>

自由報告を希望される方は電子メールで、以下の報告申込書と予稿集原稿のファイルの両方を添付して、2018 年 4 月 30 日（月）までに以下のアドレスまでお申し込み下さい。  
fukushisyakai★googlegroups.com（←★を@に変えてください）

報告申込書：下記の URL にて、申込要領をご確認のうえ、申込書の Word ファイルをダウンロードして、必要事項をご記入の上、ファイルにて提出下さい。

[http://www.jws-assoc.jp/taikai/doc/16th\\_callforpaper.doc](http://www.jws-assoc.jp/taikai/doc/16th_callforpaper.doc)

予稿集原稿：下記の URL にて「予稿イメージ図」をダウンロードの上、所定の書式にした

がって Word ファイルにて作成下さい。A4 版×2 枚の分量です。申込書とともにファイルにて提出下さい。 [http://www.jws-assoc.jp/taikai/doc/16th\\_yokou-image.doc](http://www.jws-assoc.jp/taikai/doc/16th_yokou-image.doc)

---

## ■福祉社会学会第 16 回大会テーマセッションについてのお知らせ

---

第 16 回大会（6/16・17、於中京大学）において、報告者公募型のテーマセッションを兼ねた拡大セッション（非会員演者 1 名）が 1 件企画されています。会員の皆様、ふるってご応募下さい。

### ★「福祉専門職と社会学」

企画責任者／問い合わせ先：榎田美雄（神戸市看護大学） [kashida.yoshio@nifty.ne.jp](mailto:kashida.yoshio@nifty.ne.jp)

#### 【企画の趣旨】

本テーマセッション（以下 TS）は、昨秋の日社大会での TS 1 「社会学を基盤にした新しい専門職の可能性」を受けて、構想されている。

日社では、まず『理論と方法』31 巻 2 号での江原由美子氏の問題提起（「社会学を基盤にした新しい専門職？」）の内容が確認された。

すなわち、「社会においてまだ解決方法が制度化されていない社会問題領域において、当事者の声を聴き、社会関係調整や情報提供によって解決を図りつつ、その問題の深刻さや解決の重要性を社会に伝え」（江原 2016: 320）る仕事が現実に存在し、すでに社会学出身者が、そういう業務を行っているのに、資格がない、という問題の存在が確認され、未来展望として、「社会問題分析という専門性に即して相談者の問題を明らかにできるようなソーシャル・ワークの仕事の確立が必要」（同）といえるかどうか、問題となった。

日社では、江原立論に対して、大きく 4 つの疑義が出された。即ち、①社会学という学問そのものに、本当にそのような課題に対応する力があるのか、②社会学の現在の教育課程では、問題解決に必須の、相談技能などを養成する課程が存在しておらず、能力保証ができないのではないか、③社会学専攻の教育を経なくても、科目としての社会学の学習で足りるのではないのか、④すでにある各専門職の職域を争うことは、社会学にとっては得策とは言えないのではないか、の 4 点である。

今回の TS では、非会員演者として、対人支援の業務を社会学の大学院の入学前・中・後に体験されている巽真理子氏に最初にご登壇頂き、社会学視点がない支援業務がどのような困難に遭遇するのか、そして、社会学視点を獲得することがどのように有効なのかをまず議論したい。その後で、会員報告者（公募）から、上記の 4 点に関係した「福祉社会学的議論」の提起を頂きたいと考えている。

その際「社会学を基盤とした新しい福祉専門職に未来はあるか」という課題だけでなく、

現在の福祉専門職（社会福祉士等）にどのような社会学教育（研修）を施すことが必要なのか、という課題についても、扱っていききたい。

#### 【申し込みの手続き】

・報告希望者は、報告タイトル、報告の概要をメールにて3月31日（土）までに企画責任者までにお送り下さい。その際、件名を「福祉社会学会テーマセッション申込みの件」として下さい。

・セッションへの採択の結果は、企画責任者より締め切り後数日以内に連絡いたします。

・採択された場合でも、報告申込み・予稿集原稿の提出締め切りは自由報告と同様に4月30日（月）までとし、企画責任者がまとめて行うこととなります。報告申込み・予稿集の作成については、上記の通りです。

\*\*\*

また、第16回大会のテーマセッションにおいては、以下の自主企画型のテーマセッション1件の応募もあり、承認されました。

★「計量研究をいかに政策提言につなげるか——新世代の福祉社会学」

コーディネイター：上村泰裕（名古屋大学）

報告予定者：

池田裕（京都大学）「社会経済的地位と再分配への支持——ISSPのデータを用いたマルチレベル分析」

北井万裕子（立命館大学）「家族福祉と社会関係資本——SEMを用いた分析」

吉武理大（慶應義塾大学）「ひとり親世帯における制度利用とその効果」

大久保将貴（大阪大学）「計量研究と政策提言の距離」

---

#### ■福祉社会学会第16回大会シンポジウムについてのお知らせ

---

第16回大会のシンポジウムは、以下に決定いたしました。

報告者：丹野清人（首都大学東京）岡部耕典（早稲田大学）矢野亮（日本福祉大学）

コーディネイター：亀山俊朗（中京大学）

企画の趣旨：

西欧や北米の「先進」諸国は、移民や難民、すなわち「非 - 市民」の増加によって、変容

を迫られている。このことは、従来の国民国家の枠内にいる「市民」や「部分的市民」の福祉のあり方にも大きな影響を与えつつある。

20世紀後半の福祉研究においてシティズンシップは鍵概念で有り続けたが、その際注目されたのは、権利の側面であった。一般的な訳語が「市民権」であったことから、それはわかる。国民国家の枠内において、労働者階級が、また女性やマイノリティが、諸権利を獲得し「いかに市民になるか」が注目された。

ところがグローバル化が叫ばれる近年、問題となるのは「誰が市民なのか」、すなわち市民の資格ないしは市民性としてのシティズンシップである。これは「外国人」だけの問題ではない。多くの国や地域でいわゆる「アンダークラス」が市民性に欠けると非難されるようになってきている。日本でも生活保護受給者への社会的非難が高まったことは記憶に新しい。社会的権利の正統性自体が疑われ始めているのだ。非 - 市民たる「外国人」はもとより、社会に包摂されつつあると考えられていた部分的市民の再びの排除が（そして新たな包摂もまた）、そこここであらわになっている。

このシンポジウムでは、外国人、障害者、そして被差別部落の人々の状況を事例としながら、排除と包摂がモザイクのように錯綜する現状のもとで、市民と非 - 市民、部分的市民の境界がどのように再編され、その福祉がどのような状況になっているかを検討する。もとより、多様な人々のすべての問題を網羅できるものではないし、このシンポジウムで取り上げるトピックのみが典型的なものというわけでもない（例えば階級・階層やジェンダーは報告の主題としては取り上げられていないが、複合的な差別や排除の問題として各報告に深く関わるだろう）。とはいえ、ともすれば別々の問題として扱われがちな各層の福祉のあり方を、「市民」の境界の再編成という視点で整理する試みはなされなければならない。このシンポジウムが、新たな福祉社会学研究の見取り図を形成する端緒を開くことを展望したい。

---

## ■福祉社会学会第16回大会の事前振込について

---

第16回大会の事前振込などについてお知らせします。事前振込のための郵便振替口座は以下の通りです。00180-3-635250 福祉社会学会大会  
事前振込は、5月31日（木）まで受け付けます。

### 1 大会参加費等の事前振り込みについて

諸費用は以下ようになります。昨年度と同様に振替用紙の事前送付はいたしませんので、郵便局にて振替用紙にご記入をお願いします。入金にあたっては、一般・学生の種別と以下のコース名（またはコース番号）を通信欄に書いていただくとありがたいです。なお、当日の受付の混乱を避けるためにも、なるべく事前振り込みをお願いします。

### 【大会参加費】

事前振込：(一般) 4,000 円、(学生) 1,000 円

当日：(一般) 6,000 円、(学生) 3,000 円

### 【懇親会費】

事前振込：(一般) 4,500 円、(学生) 1,000 円

当日：(一般) 6,000 円、(学生) 3,000 円

### 【お弁当+お茶】事前振込のみ、1,200 円 (2 日目のみ)

したがって事前振込の金額は以下のいずれかの組み合わせ(コース1~4)になります。  
なお、本年度の総会は昼食をとりながら開催しますので、お弁当の予約をお勧めします。

### 【事前振込金額の組み合わせ(コース1~4)】

コース1 大会参加費のみ：(コース名：参加費のみ)

費用：(一般事前振込) 4,000 円、(学生事前振込) 1,000 円

コース2 大会参加費+懇親会費：(コース名：懇親会のみ)

費用：(一般事前振込) 8,500 円、(学生事前振込) 2,000 円

コース3 大会参加費+懇親会費+お弁当：(コース名：全部)

費用：(一般事前振込) 9,700 円、(学生事前振込) 3,200 円

コース4 大会参加費+お弁当：(コース名：お弁当のみ)

費用：(一般事前振込) 5,200 円、(学生事前振込) 2,200 円

不明な点は、福祉社会学会研究委員会事務局 (fukushisyakai★googlegroups.com←★を  
@に変えて下さい) までお問い合わせ下さい。

---

### ■現在、非会員で大会報告申し込みをお考えの方に

---

次回の本学会への入会承認は6月大会時に開催予定の理事会となりますが、現在非会員で大会報告申込をお考えの方も、以下の手続きによって御報告(自由報告、テーマセッション報告)いただくことが可能です(共同報告で、現在非会員の方が含まれる場合も同様です)。

- (1) 報告は会員であることが条件となりますので、大会報告申込締切時点の4月30日(月)必着で福祉社会学会事務局(〒464-8601名古屋市千種区不老町780 名古

屋大学環境学研究科 上村泰裕研究室) あてに入会申込書を御郵送下さい。その際、「大会報告申込希望」であることを明記して下さい。

- (2) 同時に、大会報告申込み、申込要領に従って4月30日(月)までに研究委員会あてに申し込んで下さい。その際、「事務局に入会申込書送付済」と明記して下さい。
- (3) 庶務理事と理事会幹事会で入会申込書を確認したうえで、仮入会の形とさせていただきます。この時点で追加の確認事項や調整などが必要になった場合は、庶務理事より連絡を取らせていただきます。
- (4) 同じく4月30日(月)提出締切の予稿集原稿を御用意いただき、研究委員会あてに電子メールでお送り下さい。

9月締切予定の学会誌『福祉社会学研究』への投稿には6月大会時の理事会での入会承認が必要となりますので、現在非会員で投稿を御希望の方はお間違いのないようお願いいたします。

---

## ■外部研究会の御案内

---

### 【第109回SPSN研究会】

日時 2018年3月17日(土) 13:00~17:00

会場 日本女子大学目白キャンパス百年館高層棟302会議室

第1報告「福祉国家に対する態度の比較研究」

報告者：池田裕(京都大学)

討論者：大崎裕子(東京工業大学)

第2報告「東アジアの低出産高齢化—事後解釈としての出生力の文化決定論」

報告者：鈴木透(国立社会保障・人口問題研究所)

討論者：上村泰裕(名古屋大学)

---

## ■事務局からのお願い

---

住所やメールアドレスを変更された場合は、毎日学術フォーラム福祉社会学会係(maf-ws@mynavi.jp)までお知らせ下さい。

【発行・編集】 福祉社会学会事務局